

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

石川県

学校名

野々市市立 御園小学校

人権課題

子供

対象学年・  
取り扱った教科等

全学年、特別活動、道徳科等

目標・人権教育のねらい

重点目標の1つに掲げる「豊かな人間関係づくりを土台にした学級・学校づくり」の実現

実施した内容

- ・学級ごとの「構成的グループエンカウンター」の定期的な実施や、4年生から6年生の児童による月1回の異年齢交流活動「ハッピータイム（縦割り活動）」の企画や活動実践を通して、集団での役割や協力の大切さを自覚させる場を設定することで、御園小学校のすべての児童が、互いを認め合い、思いやる心の醸成を図った。
- ・道徳科において「考え、議論する道徳」の充実を図ることで、内面的資質の育成を図った。

工夫した点

- ・法務省が定める「第74回人権週間」に合わせて、12月2日から12月9日を「御園小学校人権週間」と位置づけ、各学年における教科等での取組の集中実施期間とした。
- ・「学校だより12月号」を通じて、保護者・地域への人権尊重の意識向上を呼びかけた。

他教科との  
関連

4年総合「みんながくらしやすい町づくり」

事業成果

知識的側面 : 自尊感情・自己開示等を中心とした概念への理解  
 価値・態度的側面 : 自他の価値を尊重しようとする意欲や態度  
 技能的側面 : 他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

石川県

学校名

野々市市立 御園小学校

人権課題

高齢者

対象学年・  
取り扱った教科等

小学4年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

4年生は「福祉」をテーマとした探究的な学習を行うことから、共生社会の実現に向けての課題解決に必要な知識及び技能を身に付ける過程において、自他のよさを認め合いながら、自らが社会参画しようとする態度を育てる。

実施した内容

課題を立てて調べよう

- ①高齢者や小さい子が住みやすい町のしくみ
- ②障がい者とその暮らしを支援する町の仕組み
- ③みんなが暮らしやすい町づくり

工夫した点

「追及の場」「体験の場」「かかわりの場」「表現の場」の4つの場を設定し、児童の課題意識を連続的に発展させるアプローチを講じた。石川県リハビリテーションセンターから、高齢者体験セットをお借りして体験活動を実施した。それらをもとに共生社会の実現に向けた意見発表等を行った。相手意識を持つての発表準備等、カリキュラム・マネジメントの観点から、つながりや広がり、深まりを常に意識した。

他教科との  
関連

1年道徳科「おとしよりといっしょに」 2年道徳科「ぼくたちかたたたき隊」  
3年道徳科「心の優先席」

事業成果

知識的側面 : 人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識  
 価値・態度的側面 : 自他の価値を尊重しようとする意欲や態度  
 技能的側面 : 能動的な傾聴、適切な自己表現を可能とするコミュニケーション技能

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

石川県

学校名

野々市市立 御園小学校

人権課題

障害者

対象学年・  
取り扱った教科等

小学4年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

4年生は「福祉」をテーマとした探究的な学習を行うことから、共生社会の実現に向けての課題解決に必要な知識及び技能を身に付ける過程において、自他のよさを認め合いながら、自らが社会参画しようとする態度を育てる。

実施した内容

課題を立てて調べよう

- ①高齢者や小さい子が住みやすい町のしくみ
- ②障がい者とその暮らしを支援する町の仕組み
- ③みんなが暮らしやすい町づくり

工夫した点

「追及の場」「体験の場」「かかわりの場」「表現の場」の4つの場を設定し、児童の課題意識を連続的に発展させるアプローチを講じた。調べ活動や点字板による体験活動、実際に使われている点字の文書等から、共生社会の実現に向けて考えたことをまとめた。相手意識を持っての発表準備等、カリキュラム・マネジメントの観点から、つながりや広がり、深まりを常に意識した。

他教科との  
関連

5年国語科「みんなが過ごしやすい町へ」  
6年道徳科「技術で障害をなくしたい」

事業成果

知識的側面 : 人権の支援・擁護のために活動する機関等についての知識  
 価値・態度的側面 : 多様性に対する開かれた心と肯定的評価  
 技能的側面 : 他の人と対等で豊かな関係を築くことができる社会的技能

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

石川県

学校名

野々市市立 御園小学校

人権課題

同和問題

対象学年・  
取り扱った教科等

小学5年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・「同和問題」に関する探究的な学びの過程において、その歴史や現状について理解を深める。
- ・人権が守られる社会がつくられるように、「同和問題」の学習に主体的・協働的に取り組むと共に、互いのよさを認め合うことで不合理な差別を解消していこうとする態度を養う。

実施した内容

- ・自分の就きたい職業について考えることを導入とし、社会には多種多様な職業が必要であることを知る。（心理的差別）
- ・様々な雇用実態から、「働く権利」が完全には保障されない実態を知る。（実態的差別）
- ・部落差別の実態から「同和問題」の歴史について調べ、「同和問題」の解消に向けて自分たちができることについて考える。

工夫した点

- ・自分が就きたい職業やつ就きたくない職業について、それぞれの本音を共有することで、「無条件で職業の幅が制限される」ことの不条理を実感させた。
- ・単元末において、人権三法について調べ、その内容や成立までの過程をまとめたプレゼン資料を作成することで、問題の解消に向けた具体的な手立ての理解につなげた。

他教科との  
関連

特別の教科 道徳 内容項目C「公正、公平、社会正義」の学習において、総合的な学習での学びを想起し、偏見や差別をなくすために大切なことについて考えた。

事業成果

知識的側面 : 人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識  
 価値・態度的側面 : 人権の尊厳・自己価値及び他者の価値を感知する感覚  
 技能的側面 : 他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

石川県

学校名

野々市市立 御園小学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・  
取り扱った教科等

小学4年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・アイヌ民族の伝統文化を体験的に学ぶことにより、自分と異なる文化を尊重する。
- ・自分とアイヌ民族の文化の違いを通して得た知識や友達の考えを生かしながら、みんなが暮らしやすい町づくりへ向けて、自分なりの考えをもって取り組もうとする。

実施した内容

- ・アイヌ民族の文化について、図書館の本で調べたり、体験したりすることを通して、自分たちと文化と比べながら、アイヌ民族の文化を理解する。
- ・アイヌ民族の文化が十分に保存・伝承が図られていない現状を知り、みんなが暮らしやすい町づくりへ向けて、自分にできることを考える。

工夫した点

- ・アイヌ文化活動アドバイザーの話を聞いたり、伝統的な衣服や工芸品に触れたりするなどの体験を通して、アイヌ民族の文化について親しみをもたせた。
- ・アイヌ民族の文化の1つである『イオマンテ』を取り上げ、「アイヌ民族の思い」を考えることで、異文化への理解を深めた。

他教科との  
関連

特別の教科 道徳 内容項目C「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の学習において、総合的な学習の時間の学びを想起し、自国の文化を理解し大切にすること、自分に何ができるか等について、改めて考えた。

事業成果

知識的側面 : 人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識  
 価値・態度的側面 : 多様性に対する開かれた心と肯定的評価  
 技能的側面 : 互いの相違を認め、受容できるための技能

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・指  
定都市名

石川県

学校名

野々市市立 御園小学校

人権課題

外国人

対象学年・  
取り扱った教科等

小学3年生・総合的な学習の時間

目標・人権教  
育のねらい

地域における多文化共生を目指した活動を通して、外国人の（言語・文化・習慣など）の相違点を楽しみ、外国人に対する偏見や差別について理解し、地域の一員として、外国人と共に生きられる社会（多文化共生）の在り方を自分なりに考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

実施した内容

- ・日本と外国との相違点を考えながら、自分が興味をもった国を調べたり、国際交流員との交流で外国の言語や文化に親しんだりする。
- ・「外国人の入居お断り」「無意識の偏見」などの事例を元にして、外国人に対する偏見や差別の現状を知る。
- ・多文化共生の実践例を知ったり、国際交流員の方と一緒に話し合ったりしながら、外国人と共に生きていく上で、自分にできることについて考える。

工夫した点

- ・「日本人」と「外国人」の双方の立場に立って気持ちを考えたり、共感したりすることで、「外国人へ偏見や差別をしてはいけない」という形式的な理解だけで終わらせないようにした。
- ・地域で活躍されている「国際交流員」と関わったり、多文化共生の身近な事例を知ったりすることで、児童と外国人との距離を近づけ、自分事として考えられるようにした。

他教科との  
関連

特別の教科 道徳 内容項目C「国際理解、国際親善」の学習において、総合的な学習の時間での学びを想起し、外国の人々の生活や文化の理解をより深め、多文化共生へ向けて自分にできることを考えた。

事業成果

知識的側面 : 人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識  
 価値・態度的側面 : 多様性に対する開かれた心と肯定的評価  
 技能的側面 : 互いの相違を認め、受容できるための技能



# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

石川県

学校名

野々市市立 御園小学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・  
取り扱った教科等

小学6年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

「ハンセン病」の症状や現状、「ハンセン病」の人たちが受けてきた不条理な差別について理解する。  
偏見や差別のない社会の実現に向けてどのようなことが大切なのかを考え、自ら行動しようとする態度を養う。

実施した内容

- ・「ハンセン病」の症状や現状、「ハンセン病」の人たちが受けてきた不条理な差別を知る。
- ・「ハンセン病」に限らず、自分が周りや違うと感じた際にどのような行動を取ればよいかを考える。
- ・「ハンセン病」についての学習を通して、差別や偏見をなくすための行動についてまとめ、全校児童に向けて発信する。

工夫した点

- ・単元導入で「ハンセン病」を扱い、学習内容を身近な問題に置き換えることで、差別や偏見の心が自分自身の中にもありうることの気づきを促すと共に、掘り下げて思考させた。
- ・「ハンセン病」の歴史を詳しく提示することで、差別や偏見が、社会全体の動向からも起きうることを実感させた。

他教科との  
関連

社会科の学習の中で「厳しく差別されてきた人々」「アイヌ民族」等について取り上げ、偏見や差別が社会や人々に与える影響を考えたり、それらをなくしていくために必要なことや大切な視点とは何かについて考えた。

事業成果

知識的側面 : 人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識  
 価値・態度的側面 : 人権の尊厳、自己評価及び他者の価値を感知する感覚  
 技能的側面 : 他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

石川県

学校名

野々市市立 御園小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・  
取り扱った教科等

全学年

目標・人権教育のねらい

GIGAスクール構想で配備された1人1台端末を効果的に用いて、情報の誤認に対する危険回避、情報発信者の責任、健康面への注意、インターネット上のトラブル遭遇時の対応など、責任あるICT機器の使い方と社会貢献の仕方を系統的に学ぶ機会を設定する。

実施した内容

市が示す「ののいち情報活用能力 観点別到達目標」に基づき、全ての学級において、4月の「①GIGAびらき」、2学期中の②「デジタル・シティズンシップ授業」に加え、6年生は卒業直前の3月の「③GIGA納め」により、情報社会に参画する態度を系統的に履修した。

工夫した点

「GIGAびらき」において、端末の基本操作の確認を中心としたガイダンスに加えて、令和2年に市内小中学校の代表や市PTA連合会等で定めた『ののいちGIGAスクール宣言』を活用したモラル指導を織り込むことで、デジタル社会において必要不可欠な資質・能力の素地を育んでいる。

他教科との  
関連

1年道徳科「ルールがないとどうなるの」 2年道徳科「おかあさんとのやくそく」  
5年社会科「情報化した社会と産業の発展」

事業成果

知識的側面 : 自由・責任・権利・義務等の概念への理解  
 価値・態度的側面 : 人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度  
 技能的側面 : 複数の情報源からの情報収集・吟味等による公平かつ均衡な結論への到達